

最高の鉄道車両をお客様に

U高等専門学校：機械工学科・4年

期間：平成29年8月28日～9月1日（5日間）

私は8月28日から9月1日までの5日間、下松市にあるH製作所K事業所のインターンシップに参加しました。K事業所は鉄道車両の製造を行っている会社です。私は車両品質保証部という完成車両の検査を行う部署に実習に行きました。

1日目はオリエンテーションと安全講習が行われました。業務が繁忙になるにつれ災害の発生リスクが高まる為、K事業所はより一層安全に取り組んでいるそうです。社内の道路を渡るときに左右前方確認や、挨拶が「ご安全に」というところからも安全意識の高さが伺えました。過去に起こった事故の例としては、電工ドラムの焼付き事故、治具の未固定による大型部品の落下事故などがあったそうです。対策として前者はドラムから電線をすべて出す、後者は引き継ぎの不備によるものだったため、引き継ぎの徹底という手段を取ったそうです。私は安全講習を受け、事故なく実習を終えられるように、しっかりと安全に注意しようと思いました。

2日目から4日目は第3車両QAグループという、海外向け車両の検査を行う部署に配属されました。第1車両QAグループはJR新幹線・在来線車両、第2車両QAグループは公私鉄・モノレール車両を担当するそうです。第3車両QAグループには「IEP」と「ASR」という車両がありました。実習内容は作業資格や安全上の理由から見学が主でした。一通り完成した車両にもまだ欠陥や不備が多々あるようで、車両品質保証部はお客様に出す前の最終確認をします。車内では、多数の検査員の方々が一生懸命多くの検査をこなしており、格好の良い車両の裏にはこういった地道な作業があるのだと感じました。検査内容には非常アラーム、非常ブレーキの作動やドアの障害物探知、閉まり具合などがありました。また、検査員の方に電車の構造についても説明を受け、電車にも車と同じABS（アンチブレーキシステム）があること、電車への通電はパンダグラフから通ってくる高压電流を、真空遮断器等を通して100Vに変換していることを知り驚きました。

5日目は台車部門を見学しました。モノレール(跨座式)の台車について詳しく説明を受け、理解を深めることができました。モノレールは、桁の上を走行輪と呼ばれる大きなタイヤが走ります。桁の両側面には上に案内輪が、下に安定輪がついています。案内輪・安定輪は車両の方向を定め安定させる車輪で、走る桁に合わせて固定ボルトで押付け力が調整できます。今までモノレールにあまり乗ったことがなく、台車が桁を跨いでいる内側も見たことがなかったので、モノレールが3種類のタイヤで走っていると知ったときは驚きました。午後からは部品の仕分け作業をしました。

この実習を通じ、身の回りで走っている、利用されている電車がK事業所の方々の努力によって生み出されていることに感銘を受けました。社員の方々の鉄道車両に対する熱意、長い歴史の中で培われてきた経験(鉄道工学は経験工学である)などが、日本の鉄道技術を高水準なものにしているのだと思いました。このインターンシップで働くことへの責任、仕事の大変さを学ぶことができました。

新たな学び、気づき、そして課題

YK大学：看護栄養学部・栄養学科・2年

期間：平成28年9月19日～23日（5日間）

今回、私は食品製造会社で5日間にわたるインターンシップに参加した。大学に入り勉強していく中で食品工場に興味を持ち、実際にどのような業務があるのかと思い、インターンシップに参加しようと思った。また、株式会社Nは身近にあるコンビニの食品工場と聞き、身近なところで販売されている商品がどのような過程を経て店に並ぶのか学びたいと思い、このインターンシップに参加した。

5日間で、商品開発、品質管理、生産管理の業務内容などを聞いたり、実際の生産現場の見学・作業などを行ったりした。私はインターンシップ前から特に商品開発に興味があった。まず毎週新商品が出て、商品の入れ替わりが行われているということを知った。また、地区性に重点をおいて開発していることが分かった。その地区に合った味付けなどによって、客も商品の味などに対して違和感なく安心して買うことができる。そのため、他の地域で売られていた商品もそのままのレシピで作るのではなく、この地域に合うように変えて作っているという話を聞いた。また、商品開発と言えば、「今までにない、全く新しいものを作る」というイメージがあったが、「馴染みのあるものを少し工夫する」という話を聞いた。確かに目新しいだけでは、最初に出た時だけ人気が出て人気が続くかどうかかわからないと思った。それよりも馴染みのあるものの方が「いつでも食べたい」と思えるため、人気の継続につながると気付いた。

また、この5日間で業務内容だけでなく、社会人として大切なことを学ぶことができ、働くことは大変だと改めて感じた。大切なこととしては特に、コミュニケーション能力と礼儀であると感じた。情報が意見を他の人に的確に伝えることが出来なければ、仕事はうまくいかない。また、コミュニケーションがうまくいかなかったり、礼儀がきちんとしていなかったりすると人間関係がうまくいかない。会社は一人で動かすことができず、周りとの連携が必要である。そのため、この2つは特に大切だと感じた。また、一つ一つの業務が重要な役割を担っており、自分の仕事に責任を持たなければならない。ただでさえ難しい業務であるが、責任というプレッシャーもある。休みの日も市場調査にいたり、家に帰ったあとも仕事の電話がかかってきたりするという話を聞いた。働くことは生半可な気持ちではできず、臨機応変力や判断力などさまざまな力も必要であるため、働くことはほんとに大変だと感じた。

今回、実際に社員の方が働いている姿を近くで見ることができ、多くの刺激を受けたとともに、多くの社員の方と接することができ、あまり社会人と接する機会のない私にとってとても貴重な経験となった。また、自分に不足しているところや視野の狭さを実感し、残りの大学生活の中でしっかり成長する必要があると強く感じた。「業務について知りたい」と思って参加したインターンシップだったが、業務だけでなく自分の課題などさまざまなことを見つけることができたため、この経験を無駄にせず、これからにつなげていきたい。

パンの製造・販売を通して

自分から動くことの大切さ

YK大学：看護栄養学部・栄養学科・3年

期間：平成27年8月26日～29日（4日間）

私がこのインターンシップを通して学んだことは自分から率先して働く、動こうとすることの大切さです。アルバイトなどでは与えられた仕事をこなすだけで給料はもらえます。今までは自分から率先して仕事を探すということをあまりしてきませんでした。しかしインターンシップを体験する中で、その場の状況を見て自分で判断し、自分から動かなければならない場面にたくさん遭遇しました。

パンを包んでいるとき、パンの種類によってそれぞれの個数が違うことや、日や時間によって包むパンの種類が違うことを疑問に感じました。質問すると「今少なくなりかけているパンや、残っているパンを見て、どの種類のパンを何個作るか決めている。」と教えていただきました。私はそのときに、自分で考えて、自分で動かなければいけないのだと気づきました。それから自分から仕事を探し、自分から動くようにしました。与えられた仕事が終わった時に次の指示を待つのではなく、自分から何か私にできることはありますか？と聞くようにしました。

最終日、私は店長さんに今回の私の反省点を伺いました。そのときに率先して仕事を探して動いていたのがよかったとほめられました。やはり自分から動くことが大切だったのだと思い、これからのアルバイトや、そのまた先の就職先や、ほかのたくさんの場面でも、大切にしていきたいことであると思いました。

私は今回のインターンシップで大きな声ではきはきと話すことに一番気を付けました。いらっしやいませなどの発声や、おはようございます等のあいさつも相手の目を見て、自分から言うようにしました。すると、店長さんや、従業員の方からも話しかけて下さるようになり、パンについてや、お店で気を付けていることなど、たくさんのお話を聞くことができました。また、たくさん話すことにより仲良くなれたと思いました。挨拶は仕事の面だけではなく違う場面でも重要ですし、どんなときにも必要となってくるものであると思います。でもこれだけで人との仲を深めることにつながり、それが自分が働く環境を良くしていってくれると思います。これからも大きな声ではきはきと話すことを続けていきたいと思いました。

そしてさらに、インターンシップを経験して考え方が変わったことがあります。3日目の朝、コロコラスクというラスク作りをしました。それはとても力の必要な仕事で、私にとってとても大変な仕事でした。私は自分が好きなことを仕事にしたい、そうすれば楽しく仕事ができると思っていました。しかし、一見楽しそうに見える仕事でも自分にとって大変な仕事も必ず含まれていて、楽しいだけではないということに気づきました。でも、その大変なことを乗り越えて働いていくのが仕事なのだと思いました。楽しいだけではなく、大変なことも乗り越えられるくらい夢中になれる仕事に就きたいと感じました。

このインターンシップを通して学んだことは仕事だけに活かされるものではないと思います。人生に活かせる素敵な体験ができてよかったです。

ジャムの製造・販売を体験

“働く”ということ

K大学：看護栄養学部・栄養学科・1年

期間：平成26年8月11日～9月26日（26日間）

今回のインターンシップで、私は周防大島町にある株式会社SJ ガーデンで実習を行いました。実習期間が約一か月と長期に渡ってJガーデンの仕事に関与させていただきました。主な実習内容としては、店頭やカフェでの接客、ジャムの材料の下処理、瓶拭き、ラベル貼り、郵送のお手伝いなどをさせていただきました。また、ジャムの製造に関する作業だけでなく、イベント販売でのお手伝い、容器包装リサイクル法の申し込みをするという大きな仕事も任されました。このようなことはめったにない経験だと思いました。そのような作業をさせていただいて私が感じたことは二つあります。

一つ目は「働く」ことの大変さです。第一にこのことが浮かびました。私は心の中のどこかに働くということを少し軽視していたと思います。しかし、実習を通して、毎日毎日がハードなことに気付きました。肉体的な疲労はもちろん、自分がしていることに責任があるという、プレッシャーがありました。ジャムを売るにしても、カフェでスイーツを提供するにしても、自分がミスをしてしまえば、お客様のニーズに応えることはできません。少しのミスでも大きな事態になってしまう可能性もあります。このように、お店の商品を売っているという緊張はすごくありました。また、サービスの一環としてスタッフの側から何か一言声をかけたり、説明をしたりすることでよりよいサービスができることに気付きました。実務以外のことも働くという意義に関与していると感じました。実習全体の中で、やはり「働く」ということの大変さを身をもって学ぶことができました。

二つ目は公私混同をしないことです。最初の頃からオーナーさんも、他の社員さんも、いつもきちりして抜けているところがないと感じていました。Jガーデンだからこそのこだわりや意識の高さ、プロ魂があるのだと思います。しかし、人間はいつも完璧にこなせるわけではなくて、手を抜くところとしっかりしなければならないところを分けている、つまり、公私混同をしないことが重要だと気づきました。Jガーデンでは社員さんのほとんどが結婚されていて、帰ったら家族がいるという状況です。家族との時間を大切にすることが、仕事に対する気持ちにもかかわっているのではないかなと思いました。休み時間に楽しそうに家族の話をされる社員さんの顔が忘れられません。

最後に、Jガーデンという会社で実習をさせていただく中で、多くの社会人の方とお話をさせていただく機会があり、皆さんが口をそろえておっしゃっていた「人との関わり」を大学生活で培っていきたいと考えています。社会人になって実際に働くとなると、やはり人との関わり、接し方はとても大切なことだと教えていただきました。そのことを忘れず、大学生活の中で自分と関わっている人との関係をよりよいものにしていこうと思いました。

今回のインターンシップを通して、感じたこと、学んだこと、そして自らが直面した大人の世界を忘れずに、そして今度は自分がJガーデンの皆様のように優しく、立派な大人になるという意識をもって過ごしていきたいです。

菓子製造会社でのインターンシップ

自分の作業だけでなく全体を知る事

K大学：農学部・3年

期間：平成25年8月19日～23日（5日間）

A製菓株式会社の本社工場では、従業員の方々一人ひとりが自分の仕事の意味を分かった上で作業をされていました。今自分がしている作業が何故必要なのか、次のどんな作業に繋がるのか、それを、初めて仕事をする私にも手順ごとに丁寧に教えて下さいました。もし、何の意味も分からずにただ言われたままに作業をしていたとすればどうなっていたか。例えばクリームを絞る際、次の工程でそのクリームがどうなるのか、完成品でそのクリームがどんな役割をするのかが分かっていなければ、製品の質を落とすばかりか仕事の効率も悪くしてしまいます。自分の仕事を分かって作業をする事は製品の質・作業効率の向上の為に重要であり、その仕事でのスキルアップにも繋がります。作業の一端だけではなく全体を知ることによって商品をより良くする為に何が出来るのかを考えられるようになるのです。そして何より、仕事に目的があることで仕事にやりがい生まれます。A製菓株式会社での工作中、従業員の方が飾りのフルーツのことで部長さんに意見をされているのを目にしました。これは、ただ言われたままに仕事をしているだけではないということです。更にその考えを気兼ねなく口にできるとは、とても良い仕事環境だと思いました。

私はそのようなA製菓株式会社でお菓子の企画や開発、またイベントの運営などの仕事がしたいです。その為には、お菓子会社の業務の全体をよく把握しなければならないと思いました。何故ならば、家で自分の為のお菓子を作るのとは違い、会社では、企画の人が考えたお菓子を実際に形にしてくれるのは、工場で作られている方々だからです。そして工場で梱包までされたお菓子は配送や販売担当の方々を通してお客様の手に渡ります。この度工場でのインターンシップをさせていただき、工場規模でのお菓子の製造を体験しました。そこではお菓子が一度に大量に生産され、且つ見た目も美味しそうに仕上げられていました。キラキラ綺麗な凝ったデザインを考えるのも良いですが、それだけでは商品には出来ないだろう事が感じられました。お菓子の企画や開発をする時には見た目や味、流行も大切ですが作業量やロス率、配送の都合やお客様の口に入るまでの時間の事など様々な事を考慮に入れ、折り合いを付けていかなければなりません。この事が、短い期間ではありましたが実際に製造を体験させていただきよく分かりました。

また企画の仕事に限らず品質管理や販売の仕事など、どんな仕事をするときでも、自分が分担された工程のみを見ていたのでは良い仕事はできないだろうと思います。私はアルバイトやインターンシップなどで接客・販売の仕事を何度か経験してきましたが、自分の会社の理念や、商品のセールスポイント、原材料の事など、知識があればあるほどお客様に積極的に自信をもって商品を紹介できました。工場での製造を知る事も、接客に活かせるものになるはずです。私が企画開発の部署で働けるならば、工場での製造以外にも、仕入れや保管、品質管理や配送、販売など全体をよく知り、自分に分担された役割を果たすだけではなく、常に考えながらより良い仕事がしたいです。その為に、就職までに残された時間では視野を広く持ち、興味を広げて沢山の知識を身につけようと思います。そして物事に着手するときにはただ漠然と作業をするのではなく、試行錯誤を止めない努力を続けたいです。